



子育て支援政策について問う

答 常総らしさを積極的に検討する

坂東市では、第3子以上の出産奨励金として50万円を支給している。出産に対する一時金については、ばらまき政策になりかねないといった考え方もあるが、出生率が向上した場合に予算が必要と考えれば、決してばらまきではない出生率向上に繋がる政策と考える。市として出産に対する手当等の考えは。



議員

少子化が進む中、希望する子どもの数を持ってない要因として経済的な負担を理由とする世帯の負担軽減に対する考えは。

保健福祉部長

経済的負担軽減を図る市の単独事業は、出産時にお祝金を支給する出産祝金支給事業を行っている。支給金額は第1子が5千円、第2子が1万円、第3子以降が2万円である。その他、経済的負担の大きい就学児童対策として、第3子以降の児童が義務教育期間にある保護者に対し、昨年度から第3子1万円、第4子2万円、第5子以降は3万円を支給する多子世帯子育て応援金支給事業を行っている。

議員

生まれてきた子どもたちへのサポート体制の充実も大変重要だが、出生率の向上を考えた場合、子どもを産むための政策、子どもを産みたいと思うような政策についても大変重要である。



美妻橋の今後の対応と対策について

答 整備促進期成同盟会において架け替えについて検討していく



議員

美妻橋の老朽化を市はどのように捉えているか。

都市建設部長

県によると平成27年度に橋梁長寿命化を図り、耐震工事も済んでいることから、架け替えは考えていないとの回答であった。市でも予防保全型へ転換を図っており、寿命を延ばし維持管理していく方向になる。

議員

橋の寿命は減価償却の耐用年数等に関する大蔵省令により50年と言われており、すでに寿命を過ぎていく。東日本大震災や関東東北豪雨等でダメージを受けている可能性があり、見えな部分の腐食や老朽化、コンクリートの劣化等が進んでいる可能性が考えられるがどのような対策を施しているのか。

道路課長

橋梁は5年に一度の点検が義務付けられており、その結果によって修繕箇所を決定し、計画

議員

これまでに架け替えや渋滞の慢性化の解消の要望はしていなかったのか。

道路課長

今後、土浦坂東線整備促進期成同盟会において、架け替えについて協議検討していく。

議員

防災の面から考えると堤防が15メートル高上げされたが、関東東北豪雨の際には、橋と水面の間隔が15〜20センチ程度で、堤防が高くなった現在では増水の際には危険な橋であると考えている。市として架け替えを含めた要望を強く押し進めていたきたい。また、美妻橋の渋滞慢性化に対し、効果的な策をどのように考えているか。

都市建設部長

右折車が右折できずに停留することで渋滞が発生すると考え、時差式信号機の設置も有効と思うが、交差点全体の渋滞緩和について、管理者である県に対し、要望活動を実施していきたい。